

鹿児島中看護専門学校3年課程看護科 令和3年度 学校自己評価結果

(4 : とても良い 3 : 概ね良い 2 : 不十分 1 : 全くできていない)

評価項目	評価	考察	今後の課題
教育理念・目標	(1) 教育理念・教育目的・卒業生像に一貫性があるか	3.8 令和3年度は、第5次カリキュラム改正に向けて検討委員会11回の他、教員会議等の機会に検討、協議を重ねた。令和4年度入学生から新カリキュラムを運用していく。 検討する中で、現行の本校教育理念、教育目的は、新カリキュラムの主旨（これからの時代の変化に対応しうる看護職に必要な主体性、臨床判断力、コミュニケーション力、ICT活用能力等の育成）に十分対応し、慈愛会の理念も含めて一貫性があることを再認識、再共有し、新カリキュラムにも繋いでいくこととした。また、教育理念、教育目標をもとに本校のディプロマポリシーを明確にし、教育課程を編成できた。	令和4年度も、一貫した教育理念、教育目標をもとに設定した8つのディプロマポリシーを目指して教職員一同がベクトルを合わせ、教育活動に反映させていく。
	(2) 教育理念・教育目的は、学校における看護基礎教育の特徴を明確にしているか	3.8	
	(3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想があるか	3.6 社会のニーズをふまえた学校の将来構想については、昨年より評価が上がった。本年度は、昨年度に引き続きICT環境整備やソフト面の充実が進み、時代に先行した学習者支援、育成に繋がっている。 また、令和3年度放送大学との連携を図り、17名の学生が放送大学でも履修している。履修生には放送大学支援担当者を決め、本校学習との調整、継続的な学習支援、科目履修支援を実施した。学生は看護師資格取得だけでなく、生涯学習も含めたキャリアアップにつながると考える。 看護師教育4年制化も含めたこれからの看護基礎教育に対応していくためには、本校のハード面の不足は常に指摘されていたが、令和3年度、臨床と一体化した学校移転プロジェクトが始動し、今後の学校の将来構想が具体化しようとしている。	新校舎開設に向けて、学校移転プロジェクト（Dプロジェクト）を進め、地域や病院と密接につながる夢のある学校の在り方を検討していく。
	(4) 教育理念・教育目的・卒業生像・学校の特徴等は、学生・保護者・関係施設等に周知されているか	3.5 本校教育の教育理念、教育目的、考え方については、これまでと同様に学生・保護者への文書、関係施設との会議等で周知を図っている。また高等学校訪問やオープンキャンパス、募集要項においても教育理念・教育目標を常に説明している。更に今年度は新カリキュラムの考え方、運営等について慈愛会看護管理者協議会、実習指導者会議等で周知活動を強化した。 学生には、入学時に学生便覧、シラバスを配布し入学オリエンテーションに臨ませ、本校の教育理念・教育目的・卒業生像等を周知している。結果、学生アンケートでは1年生95%、2年生80%、3年生89%の学生が本校の教育方針を理解し学習に臨んでいると回答している。 また昨年度の課題であったシラバスの活用については、シラバスをTeams内に掲載し、学生が常に閲覧できるようにしたり、授業開始前のシラバスの学習内容の確認を実施した。結果、昨年度51%であった活用は、令和3年度82.9%と上昇した。	令和3年度の取組で学生の本校教育への理解は深まっており、令和4年度も継続していく。
学校運営	(5) 教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.6 学校運営については、本校は公益財団法人慈愛会の中の一施設として健全に運営されている。 年度ごとの事業計画、教育目標及び教育の質の向上を目指してSWOT分析を行い、戦略を立てBSC（事業計画）で目標設定、具体的なアクションプラン、実施、評価へとつなげていく。また年度ごとの教育目標、事業計画を学年目標に繋げ活動している。	令和4年度も、事業計画に沿って新カリキュラムの内容をきちんと運営していく。
	(6) 運営方針に沿った事業計画が立案されているか	3.7 また、新カリキュラムでは、ディプロマポリシー到達のため、各教育内容に獲得能力を可視化した。	
	(7) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化され、有効に機能しているか	3.5 学校運営会議や教職員会議等は学則、その他の規定等において明文化され、意思決定の機関として機能している。	

評価項目	評価	考察	今後の課題
学校運営	(8) 人事、給与に関する制度は、整備されているか	3.5 人事、給与に関する制度は就業規則や給与表などで整備されている。また、昨年度の自己評価から、基準が不明確、給与体系を理解していない、確認の手段がわからない等の意見があり、令和3年度早期に、事務部門からの就業規則や給与体系について学習会を開催した。結果、昨年の2.8から令和3年度3.5と評価が上がった。 また給与に反映される看護教員キャリア開発プログラムの運用も周知され、令和3年度ラダー申請者は育児休業による年度途中復帰者2名と令和3年度末退職者1名を除く全専任教員9名が申請している。	ラダー取得等制度の内容の充実を図り、教育の質を高めるとともに、教職員にとって働きやすい職場環境となるように、今後も意見を集約し、改善していく。
	(9) 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.5 教務・財務等の組織整備は組織図、業務分担表、業務基準規程等に明文化、意思決定システムの整備がされており、職員の役割の明確化、業務の指針になっている。評価も昨年度より上昇しており、職員への周知が浸透してきていると考える。ただ、システムは整備されているが周知活用されているのか疑問との意見もあり、全員への周知を今後も継続していく。	各職員が役割を意識して業務にあたるように、年度初めの確認等を継続していく。
	(10) 関連施設や地域社会等のニーズに対応する体制が整備されているか	3.7 関連施設や地域社会のニーズに対応するため各種団体に参加し、情報収集や研修の機会を得ている。また関連施設の協力、連携が図れることは本校の強みである。定期的な管理者会議、実習指導者会議等への参画により、学校の状況を報告し、また、臨床現場の状況もタイムリーに把握でき、教員間で共有している。 更に鹿児島県看護教育協議会、看護協会、看護連盟等での研修会に積極的に携わり、教育活動に活かしている。	今後も関連施設との連携を図るとともに、令和4年度は鹿児島県看護教育協議会会長校として、鹿児島県の看護基礎教育の充実にも力を注いでいく。
学校運営	(11) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.7 本校の教育活動は、ホームページやSNS等で学生の学習の様子、行事や教育自己評価、学校関係者評価、シラバス等も公表し、また看護協会や県の依頼を受けたテレビ等での学校紹介、高等学校訪問やオープンキャンパス等でもパンフレットを使用して周知しており、令和4年度の入学者確保にも繋がった。 ホームページではタイムリーな情報提供ができており、令和3年度から取り組んだ授業評価結果も公表していく予定である。 ただ、様々なICT化が進み活用される一方で、個人情報保護や著作権侵害の可能性なども懸念され脅威でもある。	今までの個人情報保護管理に加えて、情報発信の在り方、学生指導の内容等を検討していく。
	(12) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.8 マニュアル整備、共有ファイルやTeamsを活用した情報システム化（成績入力システム、出席管理のシステム入力、Teamsでの学生の健康管理、情報共有等）を継続して進めてきており、更に令和3年度からは、タスクシフティング推進のために教務事務を配置した。これまで専任教員が担ってきた多くの事務的作業の移譲が進んだ。結果、教育自己評価が2.9から3.8と大きく上がった。	令和4年度は更に、教務事務のタスクを明確化し、業務の効率化を進めていく。
教育活動	(13) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.8 教育理念に沿った教育課程が編成され、運用されている。教育年間計画や学生便覧、シラバス、実習要項も毎年修正を行っている。令和2年度に引き続き、令和3年度もコロナウイルス感染症拡大の影響で、2年生の実習や1年生の技術演習、終講試験の日程変更を余儀なくされ、カリキュラムは年度終盤まで過密になる現状があった。ただ、計画された教育課程は無事に終了できる見込みである。 また新カリキュラムでは、教育目的、教育目標を達成するためのカリキュラムポリシーに基づく教育内容が編成できた。	今後も今までの教育活動を土台に発展させていく。

評価項目	評価	考察	今後の課題
(14) 教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.4	<p>学生が主体的に学習に取り組むことができるように、学年ごとの学習目標、科目ごとの学習目標を明示している。また各学年の年度初めのカリキュラムガイダンスで卒業時到達目標を確認し、3年生の4月と卒業時に卒業時到達度調査を実施している。</p> <p>また7月に在校生アンケートを実施し、学生の本校で身についた能力について確認した。学生は「多様な価値観や背景を持つ看護の対象の理解」「専門的な学習」「課題解決能力」「コミュニケーション力」「主体的学習力」「倫理的な気づき」を高く評価しており、特に3年生では「他者とのコミュニケーション力」「倫理的な気づき」の項目が他学年と比べて伸びていた。実習での学びが大きいと考えられる。</p> <p>また、学生が計画的に学習を進められるように毎月の日課表は前月には公表配布し、できるだけ学生の自己学習時間を確保できるように年間講義を計画している。</p> <p>令和4年度も学生が到達レベルを意識して主体的に学習に臨めるように、感染状況等もふまえながら時間や学習環境を調整し支援していく。</p>	令和4年度は看護基礎教育指導ガイドラインの1日の授業時間数等もふまえて年間の時間を作成し、学生の自己学習時間を確保していく。
(15) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.8	<p>学科等のカリキュラムは体系的に進行するように編成され、授業進度を工夫している。ただ、臨床実践家である外部講師の授業は例年にも変更を余儀なくされることは多く、また昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン学習やオンライン実習に切り替える場面も多くあった。</p>	
(16) 実践的な看護教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	3.7	<p>令和3年度も実践的な看護教育として、実習でのポートフォリオ学習、災害時トリアージ演習、基礎実習シミュレーション学習、オスキーを活用した臨床能力育成のための統合看護技術演習などを継続して行い、その都度評価しながら次年度に繋がる課題を見出している。</p> <p>また、教育方法としてジグソー学習などの協同学習やプロジェクト学習、グループ演習や課題発表等を積極的に取り入れている。更に令和3年度はシミュレーション学習にも取り組み、2年次の基礎SIM演習、3年生の災害看護演習等で活用した。</p> <p>1年次の基礎看護学実習Ⅰではコロナ感染症の影響で臨床に入れない中、臨床の看護師からオンラインで病棟内の説明を受ける機会を設けた。学生からは、学内では学べない臨床での患者様の生活の様子や看護師の配慮の一旦を学ぶ機会になったとともに、コロナ禍の中での臨床現場の感染対策の厳しさや、学校と臨床が協力して自分達のために学習環境を整備してくれることへの感謝の感想も聞かれた。</p> <p>オンラインでの臨床との協働や成人看護学実習Ⅲの緩和ケア病棟実習や精神看護学実習でも取り入れた。</p>	
(17) 実践的な看護教育（演習・臨地実習等）が体系的に位置づけられているか	3.6	<p>2年次の基礎SIM演習では、昨年度、実習で活用できたと学生に好評だった倫理カンファレンス演習を継続するとともに、患者との関係構築や観察のイメージを持たせるために、実習初日のシミュレーション演習を実施した。結果、基礎看護学実習Ⅱ後のアンケートでは96%の学生が、基礎SIM演習が実習での「気づき」や「推察する力」「アセスメント」に繋がったと答えた。また94%の学生が、知識や事前学習を実習での患者の観察やアセスメントに活かすことを意識しており、実践と学習が結びついていることを理解している。更にコミュニケーションや倫理カンファレンスは、全員が「役に立った」「まあ役にたった」と回答しており、基礎看護学実習Ⅱ前の演習内容として効果的だったと考える。</p> <p>3年次の災害看護のシミュレーション演習では、特にブリーフィング（演習の導入）を丁寧に実施し、学生の演習への参加意欲や学びを支援できた。また教育研修での学びを活用し、学生の学習内容を精選したことも学生の学びやすい環境に繋がった。更に3年次の統合看護技術Ⅱ演習では、看護判断場面の演習に看護師の思考発話の機会を設け、学生が看護師の思考過程を学ぶ機会になった。</p>	<p>令和4年度は、学生も学びの実感が大きいと答えた能動的な学習を進化させ、達成感を持てる教育方法等を検討していく。</p> <p>また、シミュレーション教育技法の取組を全教員に拡大させ、更に、臨床との協働を強化させ、学内演習への臨床スタッフの協力等を推進して、学生の思考や体験を充実させていく。</p>

	評価項目	評価	考察	今後の課題
教育活動	(18) 授業評価の実施・評価体制はあるか	3.8	本年度の主事業として「講義」「演習」「実習」の授業評価に取り組み、「学習者の主体的授業参加」「講師の取組、熱意」「学習の学びの意義」の大きな柱を基に17項目で実施し、評価が可視化された。外部講師も積極的に協力してくださり、評価は全項目4.0～5.0で高い評価であった。ただ、その中で、学生の予習・復習の取組がやや低く、課題としていく。 学生の評価は外部講師にもフィードバックできた。	学生が授業前後に自己学習に取り組めるような課題や授業の工夫、授業開始前の本時の学習目標の共有等を強化していく。
	(19) 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.6	成績評価、単位認定の基準の明確化については、学則や履修規程、実習要項に明示しており、実習のルーブリックも効果的な評価基準の見直しを毎年実施している。実習評価基準（ルーブリック）も毎年見直しをしている。今後も学生の学びの状況を踏まえながら、公平な評価基準となるように検討していく。	新カリキュラムを運営して行く中で、実習の評価基準（ルーブリック）の見直し、標準化の検討も必要となる。
	(20) カリキュラムの見直しは定期的に行っているか	3.6	カリキュラム検討委員会や教員会議での検討を重ね、教育理念、教育目的に沿ったカリキュラムを設定できた。令和3年12月までにカリキュラム変更承認申請を提出でき、令和4年度から運用予定である。 今後も教育課程について定期的に検討をし、教育内容の精選、教育技法等も見直しをしていく。	
	(21) 臨地実習の計画・実習指導の見直しは定期的に行っているか	3.4	臨地実習計画、実習指導の見直しについては、各科目の担当者を中心に実習関連会議で計画的な検討、見直しを実施している。 令和4年度は新カリキュラムと旧カリキュラムの実習が混在するため、臨床指導者、スタッフの混乱が無いように、指導者との連携を強化していきたい。	
	(22) 年度初めにカリキュラムガイダンスを行っているか	3.8	令和3年も、科目間の関連も含め学年ごとにカリキュラムガイダンスを行った。	学生が科目の関連性をより理解し、知識の統合につながれるよう次年度も継続していく。
教育活動	(23) 学生便覧は内容構成は工夫して作成されているか	3.6	学生便覧の内容構成については工夫し、作成している。 1年生の学生アンケートでは、83%の学生が学生便覧やシラバスを活用していると回答し、昨年度の78.3%よりも活用度が上がっている。 昨年度同様、カリキュラムガイダンスで科目間の関連の理解を含め説明するとともに、シラバスの冊子を用いて科目開講時に学習目標、学習内容を確認し説明をした。	令和4年度はシラバスの活用について、外部講師にも協力を得られるように依頼していく。
	(24) 学生便覧は学生が活用しているか	3.0		
	(25) シラバスが作成され、学生に説明しているか	3.6		
	(26) 科目に合わせて、専門性を発揮できるように担当教員（専任・非常勤）を配置しているか	3.5	関連施設の協力を得て、科目に合わせた専門性を発揮できる講師を配置できている。	
	(27) 教員の講義時間の配分は経験年数・授業内容を考慮したものになっているか	3.3	教員の年間講義時間は経験や技術演習担当の状況を踏まえて計画している。令和3年度も病休、育休取得者がおり、一人あたり20時間から94時間/年間で計画せざるを得ない状況だった。特にカリキュラム改正の検討会、準備もあり教員の負担は大きかったと思われるが、経験を踏まえた計画で妥当だったとの意見が多く、職員全員でカバーし合う組織風土が伺える。養成所指定規則ガイドラインに基づく専任教員の講義時間数（15時間/W）の基準は維持している	

	評価項目	評価	考察	今後の課題
教育活動	(28) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.4	国家試験対策は、3年間を通して支援できるパスに準じて、学年ごとに学習支援計画、模擬試験等が計画的に時間割に入れられ、実施できている。例年に引き続き3年生の国家試験強化学習も全員で支援する体制は継続でき、効果を上げている。 令和3年度からは放送大学との併修制度も導入し、学生の資格取得の道を拓けることができた。	令和4年度は、国家試験支援パスに則って1年生、2年生、3年生へと積み上がっていき、学年目標、計画に具体的に落とし込み、学生と共有、評価していく。
	(29) 看護基礎教育の授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.6	専任教員有資格者は13名中12名(92.3%)であり高い基準を維持できている。未資格者1名も通信制大学に入学し、資格取得を目指している。経験豊富な教員も多いが、令和2年度からの新入職者もあり、段階的、継続的な支援が今後必要である。	看護教員キャリア開発プログラムも活用しながら支援していく。
	(30) 看護基礎教育に適した教員(専任・非常勤を含む)を確保するためのマネジメントが行われているか	3.6	関連施設の協力も得て、看護基礎教育に適した教員、講師の確保ができている。専任教員の確保も、関連施設と連携した専任教員の育成、異動、職員紹介で確保できており、教員採用時面接でも協力を得られている。	専任教員数は、令和4年度も確保できている。
	(31) 教職員の指導力育成や能力開発などのための取り組み等が行われているか	3.4	年3回の目標面接、人事考課の実施や必要時面接を実施している。更に看護教員キャリア開発プログラムが本格運用され、前述の通り、対象者全員がラダー認定申請をしている。 また、令和3年度は教務主任養成講習会受講者1名、看護認定管理者ファーストレベル研修受講者1名、学会での研究発表2題、その他計画的な研修参加等もできている。 更に、教員学習会1回/月の開催、研究授業の取組2名、慈愛会J-seaty研修1名参加、その他全員がオンライン等を活用した多くの研修に計画的に取り組むことができた。	教員学習会の継続、キャリア開発プログラムを定着、継続させる。 令和4年度は、教務主任養成講習会受講2名、慈愛会看護管理者任用候補者研修受講を計画している。
学修成果	(32) 国家試験合格率の向上が図られているか	3.9	国家試験合格率は97~100%の合格率を維持している。国家試験対策は、3年間を通して支援できるパスに準じている。支援体制は整備され、学生の意識も高い。 令和3年度卒業生の最終模擬試験クラス偏差値57.2	国家試験支援パスによる取り組みを学年目標に具体的に落とし込み、学生と共有、評価していく。
	(33) 退学率・休学率の低減への取り組みをしているか	3.8	休学者、退学者の低減に向けて、特に学生のメンタル支援に力を入れている。カウンセリングの案内をTeamsで定期的に広報し、早期の心理カウンセラーによるカウンセリングに繋げることができた。また必要時保護者面談も実施した。令和3年度休学者は2名(家族の転勤による休学、実習単位未履修)、退学者1名(病気による休学中の学生)。 実習単位未修得者には休学中の支援プログラムを作成し、継続的な支援に取り組んでいる。	令和4年度も、支援プログラムにのっとなって、学習課題を抱える休学者を支援していく。

評価項目		評価	考察	今後の課題
学修成果	(34) 卒業生の活躍及び評価を把握しているか	3.6	今年度は卒業生1・3年目のサポートキャンパスを開催し、卒業生の実践力評価をアンケートで実施した。「在学中に身につけた力と」して多数回答されたのは、『チームワーク』『基本的な看護技術』『コミュニケーション力』『専門的な知識』『倫理観』『人間を理解する力』などの項目であり、本校教育の願いは卒業生に届いていると考えられる。また「もっと身につけておけば良かったこと」として『専門的な知識』『問題解決能力』『質の高い看護を探究する力』『創造的思考力』などをあげており、本校教育活動の評価となり、今後の課題も見えてきた。	卒業生1・3年目のサポートキャンパスは令和4年度も継続していく。 また、卒業生評価を受け、今までの教育を進めるとともに、実習での看護の思考過程を学ぶ学習を強化し、問題解決能力を高めていく。
学習成果	(35) 卒業生の活動状況を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.4	1年目サポートキャンパスは、外部講師の「専門家の成長の特徴と語りが拓く学び」の講演を含めてお互いが語る場を重視して実施した。3年目サポートキャンパスは、コロナ感染拡大で外部講師の講演は中止となったが、12月に語る会を開催できた。アンケートからも「自分達のために細やかで温かい準備をしてもらい、皆の話を聞いて改めて看護師として頑張ろうと思った」「このような機会は今後も続けてほしい」などの意見があり、コロナ禍の中で大変な状況の中頑張る卒業生の支援に繋がったのではないかと考える。	
	(36) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.3	令和3年度もコロナの影響で就職活動が制限され、不安になる学生もいた。随時学生に情報提供は継続した。マイナビの協力を得て就職、採用活動支援なども低学年から実施した。 学生の進路・就職支援体制や健康面・経済面を含めた相談と支援の体制は整備されているが、関連施設以外の就職支援については、窓口は副校長、学年担当教員が兼務している。 進学者2名を除く就職率100%。県内就業率92.1%で、地域医療に貢献する卒業生を今年度も輩出できた。 卒業後の支援については、学生の来校も多く、キャリアアップ・進路変更等についての相談など、就業支援の窓口として学校が活用されている。	
学生支援	(37) 学生相談に関する体制は整備されているか	3.6	学生からの相談は各学年担当や実習担当教員などに相談があり、主任、事務部門も一緒に学生の困りごとに対応している。また、カウンセリングが活用され、外からのサポートもされている。令和3年度「ハラスメント防止等に関する規程」を作成し、学校運営会議で了承を得た。	令和4年度は「ハラスメント防止等に関する規程」を公表、運用していく。
	(38) 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.8	関連施設の奨学金制度、公的奨学金制度、またコロナ禍での緊急学生給付金制度等も学生にも定期的に情報提供し、支援体制は整備されている。また、社会人対象の専門実践教育訓練給付金も多く、社会人学生が活用している。 更に令和3年度は放送大学とのダブルスクールで学ぶ学生や経済的に困窮している学生に対する返済不要の奨学金（節英会）が加わり、学生への篤い経済的支援に繋がっている。本校の恵まれた経済的な学生支援は外部からも高い評価を得ている。	
	(39) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.8	教務主任や実習担当主任、事務長を中心に、計画的に健康管理を実施している。小児感染症やB型肝炎ワクチン等の接種指導だけでなく、令和3年度はコロナワクチン接種も関連施設の協力を得て、学生の計画的接種も実施でき、コロナ感染のクラスターを発生させることなく、学生の安全を守ることができた。また心理カウンセラーとの連携も図り、心の健康にも早期に対応できる体制がある。	学生が早めに相談しやすい体制（窓口の設置、学生へTeamsを活用した広報等）の継続
	(40) 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.6	学生のボランティア活動参加等は学校としても支援しているが、コロナ禍による多くの事業が中止され、学生の課外活動の場は制限されており、評価も低くなっている。令和3年度鹿児島マラソンボランティアも参加を計画していたが、行事そのものが中止となった。	学生の地域活動への関心を高める。

評価項目		評価	考察	今後の課題
学生支援	(41) 学生の学習環境への支援は行われているか	3.2	学校ハード面の課題は多いが、学生数に合わせた更衣室の整備、演習物品の補充等を行い、またコロナ禍にあってもできるだけ密にならないよう、第2校舎の大会議室、研修室等も活用して学生の学習に支障が無いように配慮している。また今年度もICTのハード面、ソフト面の充実を図り、学生の効果的な学習に繋がっている。本校のICT環境の充実は学生にも周知され、更に今年度受験生の本校選択の大きな要因になっている。	令和4年度は、学生の効果的な学習のための演習物品等を補充していく。(輸液ポンプ、保育器等の購入等)
	(42) 保護者と適切に連携しているか	3.3	令和3年度も、コロナの影響もあり行事や学内対策、実習、国家試験の協力など保護者への協力を必要とした。その都度連携を図り、必要事項は文書等発送した。	
	(43) 卒業生への支援体制はあるか	3.5	卒業後も多くの学生が訪問してくれており、職員は就業後の様子やキャリアアップの悩み、私的な相談などにも一先輩として関わっている。前述の卒業生1・3年目のサポートキャンパスは必要とされており、次年度も計画している。	卒業生1・3年目のサポートキャンパスを継続。
教育環境	(44) 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.9	ハード面で難しいところはあるが、今年度もICT環境整備(電子黒板など)に力を入れ整備できた。 職員の評価では、更衣室・トイレ等が不足する。演習室が狭い。図書室が遠く利用が難しいなどの意見が多かった。	ハード面の制約がある中での学習環境の整備の継続、第2校舎の活用
	(45) 防災に対する体制は整備されているか	3.4	防災訓練は年1回実施し、マニュアルが整備され、学生一人ひとりに避難用グッズも準備している。 また、令和3年度は両課程安全管理委員会でコロナ感染症対策や災害時対応、ハラスメントの防止等に関する規程作成等に取り組んだ。結果、コロナのシミュレーション計画に基づき、感染者発生時にも具体的に対応でき、学内での感染のクラスター発生等を起こすことなく対応できた。	令和4年度は「ハラスメントの防止等に関する規程」を遵守できるように周知を進めていくとともに、突発的な災害も想定した事業継続計画を検討作成し、非常時に対応できるようにしていく。
	(46) 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか	3.7	臨地実習指導者の配置、適数を満たしている。また、定期的な各施設の実習指導者会議の参加継続、年2回の合同実習指導者会議等で学生支援について共有している。 部署によってはまれに協力を得にくい病棟もあるが、教員は臨床指導者の協力が得られていることを高く評価している。 令和3年度は「臨床判断能力を高める指導的関わり」について各施設の指導者を協働学習を実施できた。	令和4年度は新カリキュラムの教育内容を臨床に周知、共有し、臨床と教育が一体となった看護基礎教育、継続教育に繋げていく。 また、今村総合病院と連携し、「臨床看護教員」を配置する。教育と臨床との一体化、看護の実践・教育・研究面で連携し、看護ケアや看護教育の質の向上を図っていく。 更に、会議や日々の指導者との連携の中で、「臨床判断能力を高める指導的関わりを各施設指導者、スタッフに浸透させ、学生の臨床判断力を強化していく。
教育環境	(47) 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしているか	3.5	関連施設と協働し、実習環境マニュアルを作成、臨地実習指導者、教員の役割を明確にしている。 全体的に、各臨地施設の指導者との連携が図れ、学生指導に熱心に携わって頂いている。	
	(48) 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしているか	3.5		
	(49) 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えているか	3.8	月1回の実習指導者会議、年2回の全体実習指導者会議、教員・指導者合同研修会で情報交換し、日々の実習指導の中で協働できるように体制を整えている。 月1回の各施設の指導者会議はコロナ感染拡大状況によって中止になることもあった。	

評価項目		評価	考察	今後の課題
学生の受け入れ	(50) 入学選考試験の種類をわかりやすく明示しているか	3.7	入学選考試験の種類、選抜方法は明確になっている。また選抜方法も明確になっている。 募集要項は新入生やオープンキャンパス参加者のアンケートを参考に学校案内やホームページの内容、オープンキャンパスの内容を検討し、希望に添うようにしている。また、学生募集要項に本校の強みを紹介、学生の声や高校教諭の声を反映しながら検討し、内容を毎年見直し掲載している。	
	(51) 入学者選抜の方法は明確になっているか	3.7		
	(52) 学生募集の広報には志願者の知りたい情報を網羅しているか。	3.6		本校の強みを活かす広報活動、募集活動を継続して工夫する。
	(53) 志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされているか	3.6	志願者・合格者等の推移とその評価も行われているが、受験者減少傾向を受け、令和3年度は短大等への学校訪問も新たに追加した。 しかし、推薦入学出願者は30名（昨年26名）と維持できたが、一般入学出願者26名（昨年38名）と減少している。令和4年度入学者数（45名予定）は確保できているが、受験者数減少傾向は進んでいる。	受験者数確保に向けて、分析評価を継続していくとともに、広報活動を強化していく。
	(54) 選抜方法と学生の状況について検討しているか	3.3	指導上困難な学生については、参考にはしているが、全体的な比較・評価までは実施できていない。	
財務	(55) 教職員は学校がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解しているか	3.3	教職員は学校の財政基盤について理解し、財政的視点から行動している。昨年度評価が低く、教員が財政基盤としての補助金や法人からの支援等について把握できていない現状があった。そのため、今年度年度初めに学習会を開催し、教員の理解を促した結果、昨年度より評価が上がった。 今後も教職員が組織の一員としてマネジメントの基本である「ヒト」「モノ」「カネ」を意識して行動できるよう、情報の共有等を行っていく。	今後も本校の財政基盤、学校運営について教職員間の共有を図っていく。
	(56) 教職員はそれぞれの観点から財政について考え行動しているか	3.1		
法令等の遵守	(57) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.8	県学事法制課、くらし保健福祉部医師・看護人材課看護係等と相談しながら、法令を遵守し、適正な運営がされている。	
	(58) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.6	個人情報保護管理規程が作成されており、学生オリエンテーションや実習前、その他必要時に指導している。 今後も情報リテラシーやSNSの功罪等も学生に分かりやすく指導し、倫理に即した行動ができるように支援していく。 教員は個人情報保護に関する意識は高いと思われるが、一人ひとりの管理手法まで確認できていないところもある。	令和4年度は、入学時オリエンテーション、学年指導等で情報リテラシーの項目を追加し、指導する。
法令等の遵守	(59) 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.7	令和2年度の学校関係者評価委員会での意見をもとに、教育自己点検・自己評価の実施前に、令和3年度の事業の取組とその評価を総括し、資料を作成して教職員全員で内容を共有した。結果、評価者の学校運営についての理解が深まり、より客観的な評価に繋がったのではないかと考える。 自己評価で課題となった内容は次年度の事業計画に具体的に追加し、課題の改善に努めている。令和3年度は令和2年度と比較し、60/70項目で評価が向上した。	今後も教育評価を継続し、学生への質の高い教育、学校運営に繋げていく。
	(60) 自己評価結果を公開しているか	3.8	平成23年度から教育自己点検・自己評価、令和元年度から学校関係者評価を開始しその結果を公開している。	教育自己点検・自己評価、学校関係者評価及び公表の継続
社会貢献	(61) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.1	看護協会や外部からの講師派遣要請への協力は積極的に行っている。また、慈愛会関連施設、看護部支援室への学校施設・備品の貸出などを実施している。また、妊産婦等の災害時福祉避難所として鹿児島市と連携締結を行い、令和3年度は連携シミュレーション演習に参加した。	

評価項目		評価	考察	今後の課題
地域貢献	(62) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2.6	例年、学生のボランティア活動を支援し、福祉施設や看護団体の広報事業や関連施設行事等でのボランティア活動を行っているが、今年度はコロナウイルス感染症の影響で各事業が中止になり参加できていない。そのため、評価が低くなっている。	
	(63) 地域ニーズに適正かつ継続的に貢献しているか	3.3	ただ、コロナ禍で全国的な献血量が減少している中、学生へ献血協力を依頼し、実習終了後の3年生が多数献血に協力し、県赤十字血液センターの担当者から大変感謝された。3月にも依頼している。	
国際交流	(64) 国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか	3.5	国際的な視野を広げるための授業科目として国際看護があり、令和3年度からは国際看護の非常勤講師が決定、学生は多様な視点で学べている。しかし、学生の卒業時到達度の評価では国際的な視点が低く、学習内容や時期等も検討していく必要がある。また令和3年度は慈愛会のEPA看護師等との交流は実施できなかったため、令和4年度は年間計画に挿入し、実施できるようにしていく。	3年生にEPA看護師等との交流を計画し、実施する。
	(65) 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えているか	3.1	ネット環境は整備されており、インターネットを通じて国際的視点を学べる環境はある。	
	(66) 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えているか	1.9	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制は整っていないため、評価は低いままである。今後の課題である。	
研究・研修活動	(67) 教員は研究活動に取り組んでいるか	3.2	令和3年度研究委員会を立ち上げ、倫理審査要領、申請様式等の基準を作成した。	教員の研究活動を推進していく。
	(68) 教員の研究活動を支援する体制があるか	3.0	令和3年度学会での研究発表2演題。また、令和4年度の学会発表に向けて、4演題の研究活動に取り組んでいる。教員の研究活動への取組が広がってきている。	
	(69) 教員は年一回以上研修に参加しているか	3.8	教員の専門領域や経験年数などを基に、学生の教育活動に生かせるように研修計画を立てたが、令和3年度もコロナ感染拡大の影響で学会や研修が中止またはWEB研修になり、参加が難しい状況もあったが、WEB研修の利点もあり（遠隔地でも参加可）多数の研修に参加することができた。	
	(70) 研修で学んだことを教育に還元し活用しているか	3.6	研修後は教員会議等で情報共有し、教育活動に活用できている。	

自己評価比較

令和2年度 令和3年度

